



肌が敏感な方の快眠をサポートする、低刺激ガーゼ（特許製法）のパジャマ。

プレスリリース用補足資料

- ・ マシュマロガーゼパジャマ関連 3 ページ
- ・ 岩手ホスピスの会関連 3 ページ

「ぐっすり眠れる」3つの理由

保温性、通気性、吸水性を備えているマシュマロガーゼは、まるで呼吸しているかのように**就寝中の衣服内の環境を快適に保ちます。**

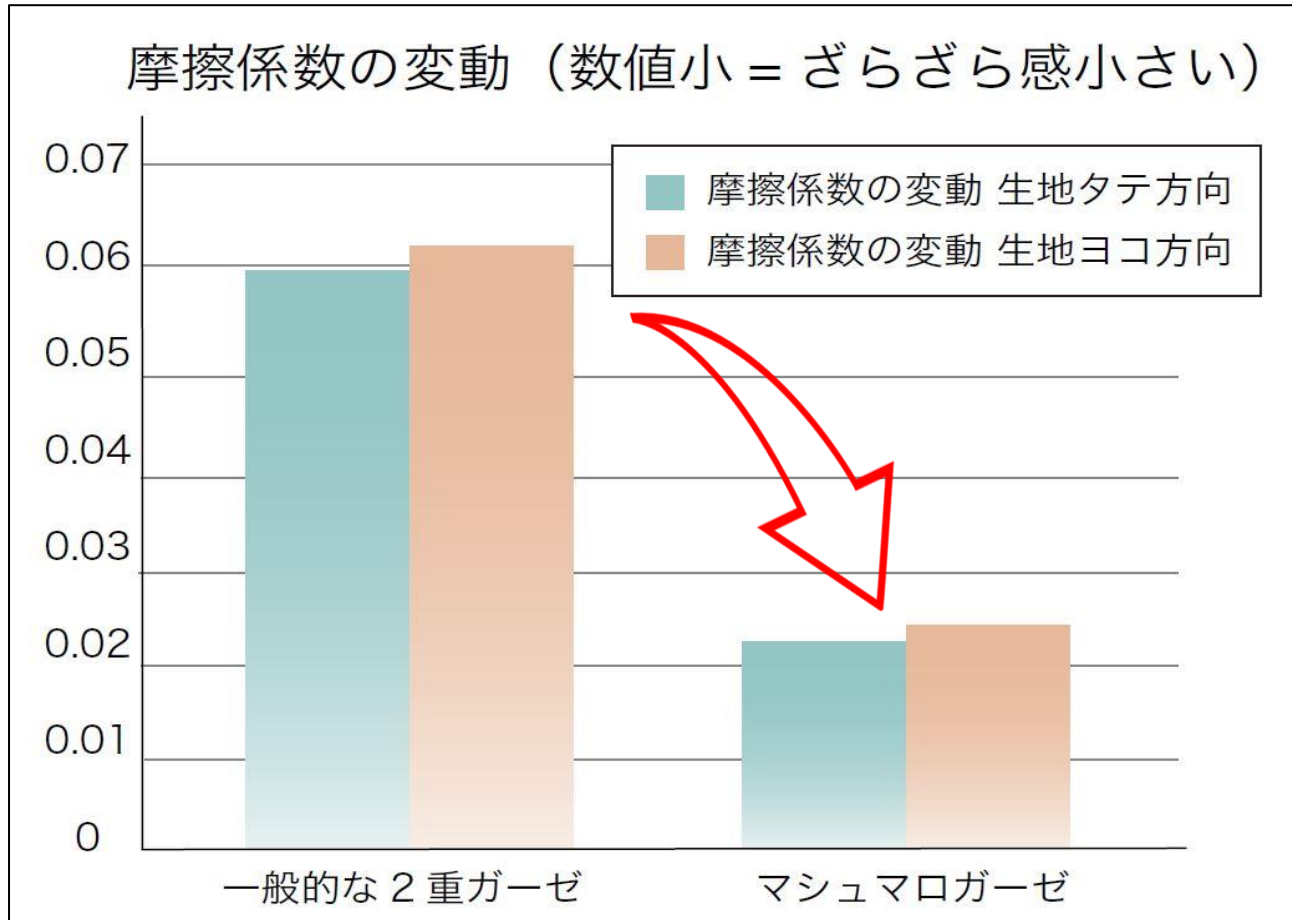


※マシュマロガーゼ (120g/m²) ・
カットソー/綿天竺 (162g/m²) ・
夏物パジャマ/綿ブロード
(110g/m²) ・冬物パジャマ/綿ネ
ル (177g/m²) での比較。

※生地としての物性を比較したデー
タであり、製品の性能を示すもので
はありません。デザインやパターン
によって性能が異なる場合があります。
(内野株式会社調べ)

肌を刺激しない「摩擦レス」

マシュマロガーゼは肌とこすれた際の刺激がとても少なく、**肌当たりがとてもやさしい**のが特長です。

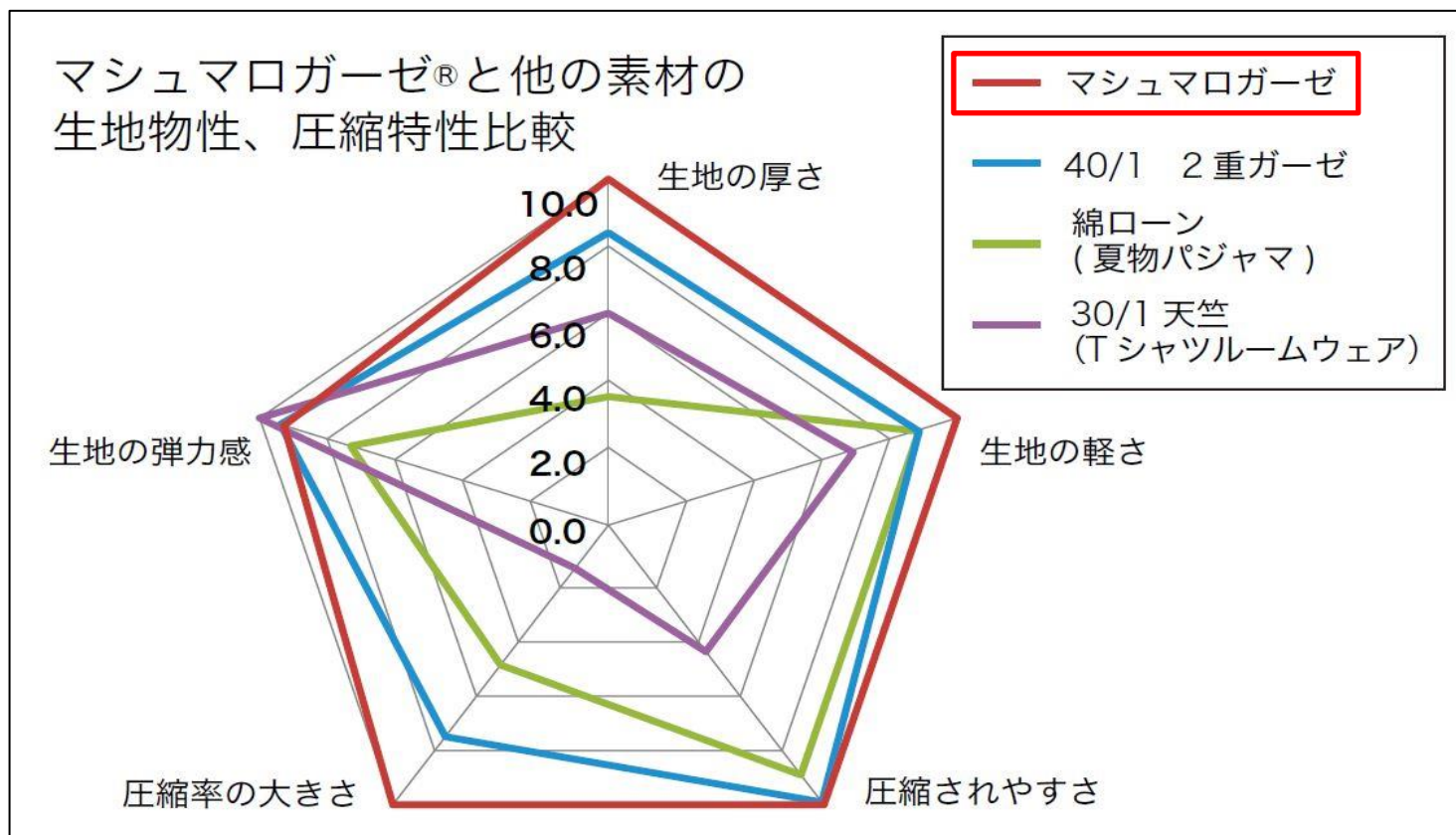


資料の解説

摩擦係数の変動とは、擦られた際の抵抗が大きかったり小さかったりする（滑ったり滑らなかったりする）度合いのことです。摩擦係数（摩擦抵抗力）の変動が小さいほど、肌をこすった際の刺激が一定でなめらかに感じ、ザラザラとした感触が小さくなります。

肌を圧迫しない「やわらかさ」

マシュマロガーゼは身体を動かした時の肌への刺激が**とても少ない**のが特長です。



資料の解説

他の素材と比べて生地が厚くて軽いため、加圧されるとつぶれやすく、やわらかくて抵抗感が少なくなります。圧縮されやすさは生地をつぶれやすさを表し、数値が大きいほどやわらかく抵抗感が小さくなります。圧縮率の大きさは生地をつぶれる度合いの大きさを表し、数値が大きいほど肌に圧力が加わりにくくなります。生地の弾力感をつぶれた後の復元力を表し、数値が大きいほど復元しやすくなります。

岩手ホスピスの会について

【概要】

- ・がん患者・家族・医療者の相互支援団体
- ・設立 2002年12月
- ・会員数 500名（2014..12現在）
- ・ホームページ <http://hospice.sakura.ne.jp/>

【目的】

ホスピスや緩和ケアの推進によりがん患者と家族が、身体と心の苦痛から解放される為、互いにサポートを行う事。

【主な活動】

- ・患者、家族のサポート活動
- ・緩和ケア、ホスピスケアの推進を、行政やマスコミなどに対し、患者・家族の立場から要請

【詳細】

- ・抗がん剤の副作用で脱毛に悩む患者さんにタオル帽子を贈る活動
- ・がん相談ホットライン開設
- ・ホスピスボランティア養成講座開講
- ・会報誌の発行

岩手ホスピスの会事務局

〒020-0833 盛岡市志家町13-31 川守田祐司方「岩手ホスピスの会」

TEL 090-2604-7918 / FAX 019-653-6447

メール hospice@eins.rnac.ne.jp

岩手ホスピスの会 代表のメッセージ

この会を設立したきっかけは、私の家族が激しいがんの痛みで苦しんで亡くなったことからでした。不幸にして緩和ケアを受けられず死んでいきました。

岩手にもがんの痛みを和らげるホスピスが欲しい、という思いに賛同してくれた患者会などの方たちと会を結成し、署名活動やホスピスの啓蒙活動を行って来ました。家族を看取ってもっとも強く感じたことは、一生懸命生きてきた人間が人生の最後でなぜこんなに苦しまなければならないのか、ということでした。しかし、私の家族のような体験は今でもけっして珍しいことではなくて、この日本においてがんの痛みで苦しんでいる患者さんがまだ大勢いる、そう思って活動を続けてきました。

私たちは2003年に岩手にホスピスを願う街頭署名活動と県知事への提出を行いました。また、2004年には岩手県議会に提出した「岩手県での緩和ケアなどの医療の充実と施設整備の促進を求める請願」が全会一致で可決されました。その他、苦しむ患者さんに少しでも役立ててもらおうと様々な取り組みを行って来ました。

がんの痛みの9割は確実に取れるほど医学は進展している。しかしお医者様たちの半数近くが、がんの痛みを適切に取るための基本であるWHO方式を知らず、多くの患者さんが痛みがとれず苦しんでいるという報告があります。

このような中で2009年から、がん診療に携わるすべてのお医者様を対象にした緩和ケア医師基本研修が全国で実施されることになったことは、緩和ケアの充実を願って活動してきた私たちにとって大変嬉しいニュースでした。幸いにも、現在 岩手に5つのホスピスが設置されております。更に一般病棟でも緩和ケアが浸透し、一人でも多くの患者さんが痛みから解放されることが私たちの願いです。

また、患者さんに笑いと希望を与え続ける樋口強さんの「がんを生きる—いのちの落語講演会」を5年間継続して開催してきたことをきっかけに、がん患者さんとそのご家族の支援活動にも力を入れています。

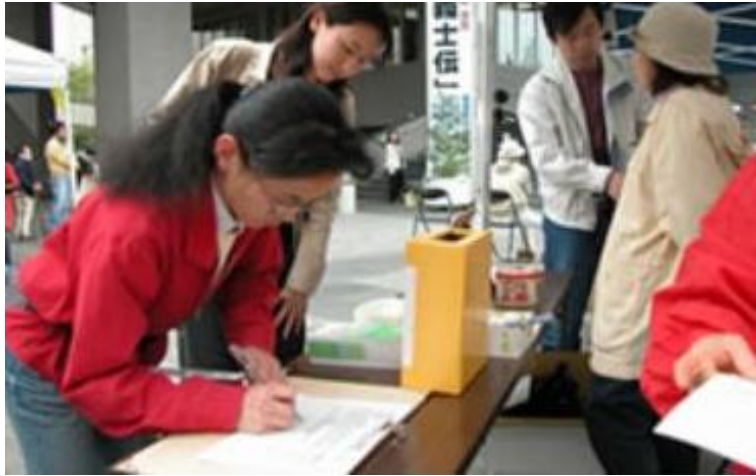
抗がん剤の副作用で脱毛に苦しむがん患者さんを支援するためにスタートした「タオル帽子」作りの取り組みは、大変大きな反響を呼び、帽子を作るボランティアさんも増え続けています。多くの患者さんやご家族がこの活動に共感してくれ、全国各地に帽子を送っています。活動を通して一番感じたことは、全国には数多くのがん患者さんが埋もれていて、皆孤独に病と闘っていることです。でも、タオル帽子を通して、私たち患者や家族は何か少しでも助け合うことができるのではないかと、思いました。

岩手ホスピスの会は多くの会員さんやボランティアさんに支えられています。

どのような場合でも必ず、もっとも弱い患者さんの立場に立って考えることを基本に、これからも活動を続けて行きたいと思えます。

代表 川守田裕司

岩手ホスピスの会 活動の様子



ホスピスを願う街頭署名活動



タオル帽子講習会と療養相談会



全国のがん診療連携拠点病院
へタオル帽子のプレゼント



闘病中の患者さんを元気づける
タオル帽子